資料１

前回（第2回WG）の振り返りについて

令和3年10月12日
内閣府　地方創生推進事務局

前回の議論のポイント

都市再生の取組やデータ活用事例に関する各自治体からの発表を踏まえ、
都市再生におけるデータ活用の現状や課題、評価にあたって今後考慮するべき事項や反映すべき考え方、評価項目の方向性について議論頂いた。

＜都市再生の評価全般に関するご意見＞

〇評価指標を検討するにあたって考慮すべき事項について

・都市の持続可能性を評価するにあたっては、**①政策関連性、②科学的根拠③実施容易性、④活用可能性**が重要であり、さらに**相対性、絶対性のバランス**や**他都市との比較**についても考慮するべきである。

〇データ取得・評価範囲の考え方について

・**評価するべきエリアの範囲**（都市全体、緊急整備地域、その中でも開発が進んでいるエリア、そうでないエリア等）を明確にするとともに、**対象地域周辺への波及効果の考え方**も整理していくべきである。

・また、周辺地域等の開発エリアに限ったデータだけでなく、**後背地を含めた広いエリア**の中でバランスをとりながら開発出来ているかをウォッチしながら、データを収集していくことも重要である。

〇データの公開について

・都市再生やデータ活用に積極的な自治体の取組みを展開しながら、後発地域の参考となる事例を収集し、展開していくべきである。そのため、都市再生緊急整備地域を継続することだけを評価目的とするのではなく、**データ分析と同時に得た知見をどのように公表していくか**を検討することも重要である。

・**国としてまとめて提供するベーシックなデータ**と、個々の目標に応じて**自治体が独自で検討するデータ**を分けて、データ活用する方法を整理する必要がある。また、**国としてどういう形でバックアップする**か、地方独自できめ細かく進められるものはどこにあるのかも、整理していく必要がある。

・自治体内で保有されているデータをもっと共有するべき。**データ収集が単発とならないように、データの使い方や組み合わせ、加工方法（属性の付与等）についても国として提示**していくべき。

前回の議論のポイント

＜評価項目やデータの活用方法に関するご意見＞

○**カーボンニュートラルや交通の問題、レジリエンス**といった観点は共通指標として、整理をする必要がある。

○評価項目を検討するにあたって、時系列的な比較を続けて、**継続的に効果検証することは重要**であるが、**予算の確保等の課題**もあわせて考慮する必要がある。

○アンケート結果など定性的な評価は大規模な調査など手間がかかることもあり、１度精緻に調査し、相関が高いデータを見つけることで、今後の評価やデータ収集では、**評価項目と相関性が高く、入手しやすいデータで、代替するような方法**も考えてよいのではないか。

＜その他＞

○今後人口がピークアウトした場合に、どのように都市をマネジメントするかという、長期的な観点も必要である。また、長期戦略と人口減少を見据えた時にどういったデータを必要と感じ、どのように比較しながら進めていくのか、自治体としてしっかり考えをもっておく必要がある。

○高度成長期のようにただ作って、売るというサイクルではまちづくりは上手くいかない。それぞれの都市、自治体で考える望ましいビジョンを提示し、そのビジョン達成に向けた現状の立ち位置を評価する枠組みが必要。